

三陽麗景早芳辰 四序佳園物候新
惟願聖主南山壽 何愁不賞萬年春

梅花百樹障去路

垂柳千條暗回津

鳥飛直為驚風葉

魚沒都由怯岸人

【読み】

三陽(さんよう)の麗景(れいけい)芳辰(ほうしん)早く 四序の佳園(かえん)物候(ぶっこう)新たなり 梅花百樹は路を去(ゆ)くを障(さえぎ)り 垂柳(すいりゅう)千条(せんじょう)は津を回(めぐ)らして暗し 直(ただ)風葉に驚くが為に鳥は飛び、魚没るは都(すべ)て岸人を怯(おそ)るに由(よ)る 惟(ただ)願わくは、聖主の南山の寿 何ぞ愁えん 万年の春を賞(め)でざるを。

【意味】

春の陽気が美しく、早くも芳しい季節となり、四季折々の美しい庭園には新たな兆しが見られる。梅の花が通り道をさえぎるように何百本も咲き誇り、垂れ下がる柳の枝が千筋も渡し場を回ってあたりを薄暗くしている。鳥は風に揺れる葉に驚いて飛び立ち、魚は岸辺の人を恐れて水に潜っている。ただ願うのは、聖なる君主が南山のように長寿であられること、それが叶うなら、永遠に続く春を楽しめないことなど何も憂う必要はない。

*三陽…春 *麗景…美しい景色や風景を意味する言葉 *芳辰…春の美しい時期、春の佳き日 *四序…四季折々 *物候…四季折々の風物。事物と天候

*南山樹…終南山が崩れないように生命や事業がいつまでも続くこと。人の長寿を祝う言葉。 **遊囑…遊びながら遠くをながめる

*李隆基…唐の皇帝玄宗の皇太子時代の名

【出典】春日出苑遊囑(李隆基・唐)

春日 苑を出で遊囑(ゆうしよく)す

春の日に庭園を出て散策し、自然を眺めながら感じたことを詠んだ詩で、唐の玄宗が皇太子時代に作ったもの